



(3)



(2)

るものであるが、(4)は妙法蓮華経薬草嚙品の经文の一節を書写した柿経に属するものである。こうした柿経は大量に出土する例が多いが、本例の場合は単独の出土である。

解説に際しては奈良国立文化財研究所の館野和己氏、奈良大学の水野正好氏の御教示をいただいた。

(福家清司)

木簡研究 第五号

巻頭言——木簡史の研究について——

関 晃

一九八二年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京二条大路・左京二条二坊十二坪 白毫寺遺跡 藤原宮跡 山田寺跡 阿部六ノ坪遺跡 長岡京跡(1)

長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 長岡京跡(4) 仁和寺南院跡 大坂城跡

梶子遺跡 道場田遺跡 野畑遺跡 穴太遺跡 下野国府跡 下野

国府跡寄居地区遺跡 長原東遺跡 多賀城跡 弘田柵跡 日野川

朝宮橋下流 桜町遺跡 出合遺跡 辻井遺跡 助三畑遺跡 肩脊

堀の内遺跡 草戸千軒町遺跡 田村遺跡 高畑廃寺 藤田遺跡

一九七七年以前出土の木簡(五)

藤原宮跡

字訓史資料としての平城宮木簡

——古事記の用字法との比較を方法として——

小林 芳規

平城宮出土の衛土関係木簡について

鬼頭 清明

木簡とコンピュータ

田中 琢

書評・『草戸千軒——木簡一——』

水藤 真

彙報

頒価 三五〇〇円 千四〇〇円